

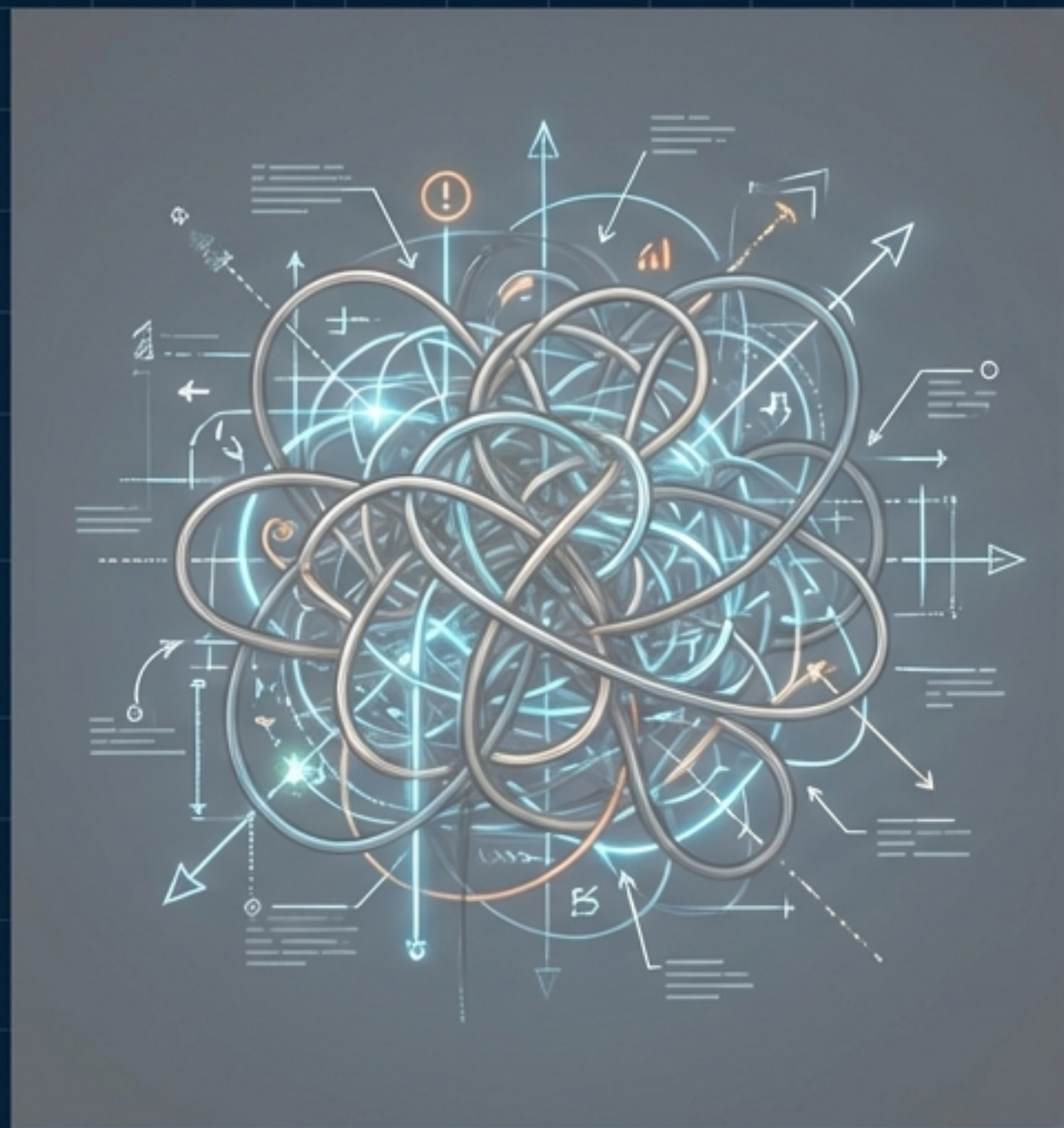
会社員のための「設計型スイング」完全講義

相場を予想するな。設計せよ。

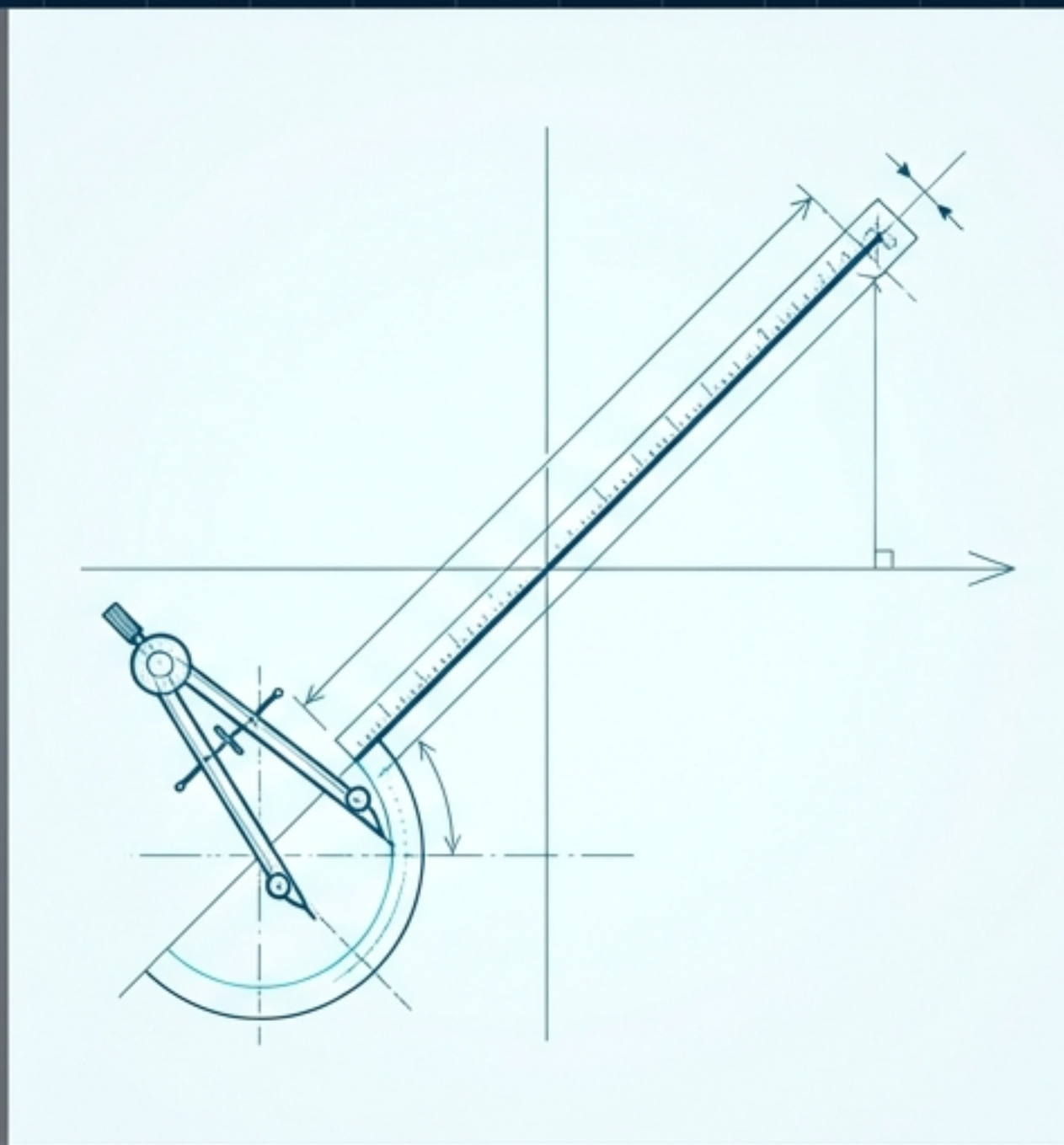


派手な手法も、特別な才能もいらない。必要なのは「設計図」だけだ。

なぜ「手法」を知っているのに勝てないのか？



技術 (Technique)



設計 (Design)

多くのトレーダーは
「エントリーの技術」
ばかりを磨いている

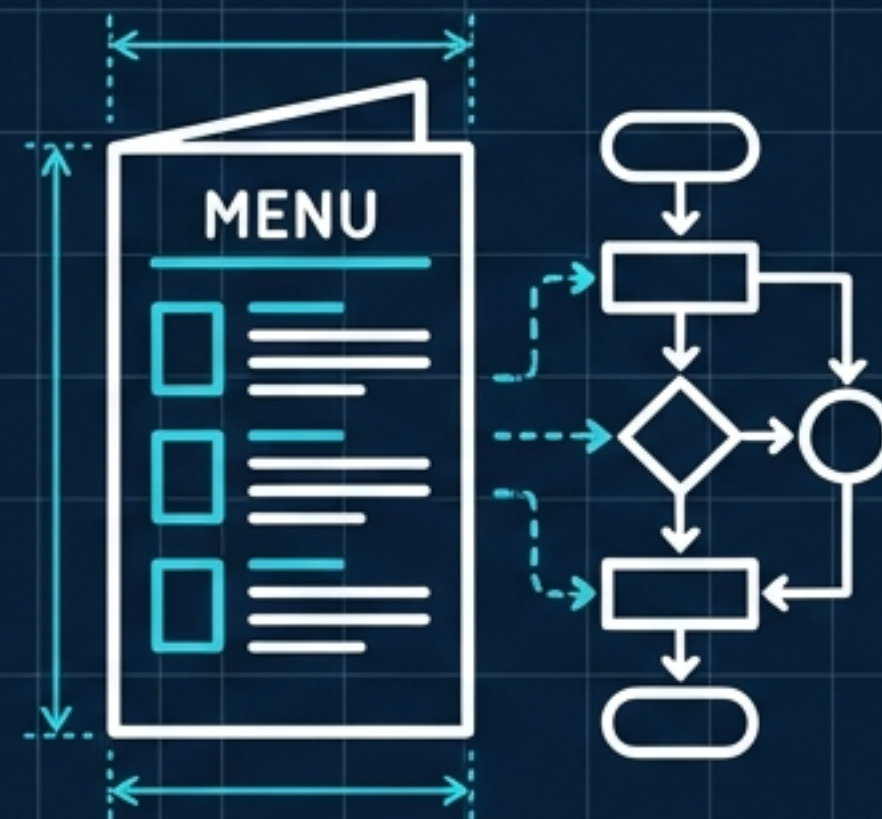
しかし、勝てる人は
「どこで戦うか」を
先に決めている

違いはたった一つ。
「トレードを『設計』で
捉えているかどうか」

技術と設計の違い：料理のメタファー



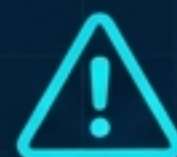
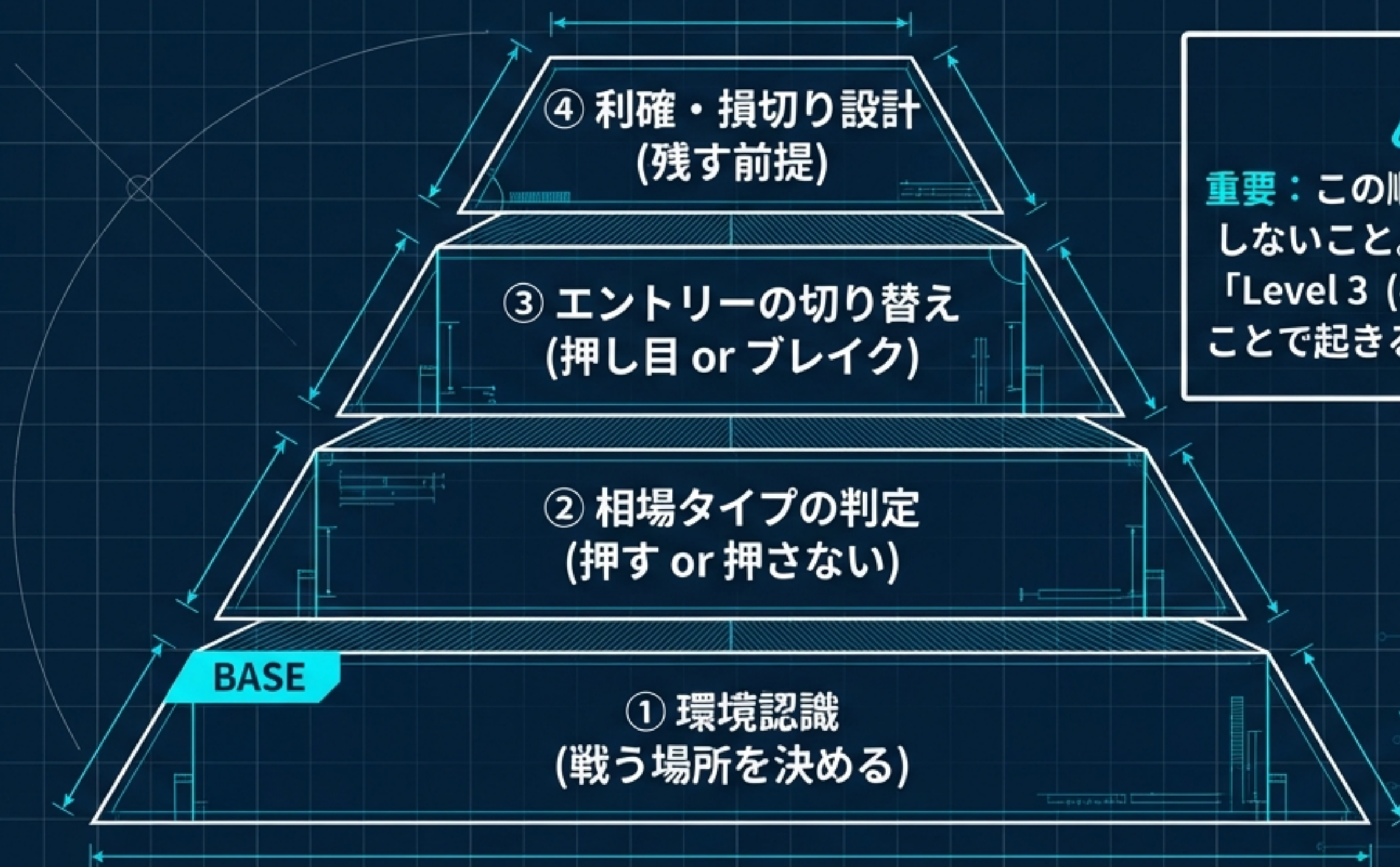
包丁の技術 (Entry Skill)



献立の設計 (Scenario Planning)

設計型スイングとは
「張り付けない前提で、利益が残りやすい行動だけを選ぶトレード」
これはインジケータ論ではなく、設計論である。

設計型スイングの全体像：4つの階層



重要：この順番を絶対に逆にしないこと。多くの失敗は「Level 3 (手法)」から入ることで起きる。

① 環境認識：戦う場所を決める



ここで決めるのは
「戦うか、戦わないか」だけ。

- ・長期・中期のトレンドが一致しているか
- ・通貨の流れが素直か
- ・明確なレンジ相場ではないか

手法はまだ考えない。エントリー位置も考えない。

失敗事例：環境認識なき「押し目買い」



Architect's Note

設計者の視点：
「レンジの時点でスイ
ングには不向き。最初
から戦わない場所」

② 相場タイプの判定：押すか、押さないか



この判定ができないと、永遠にエントリーチャンスが来ない。

具体例：ドル円 145.00円→146.00円の上昇

パターンA：待つ (Wait)

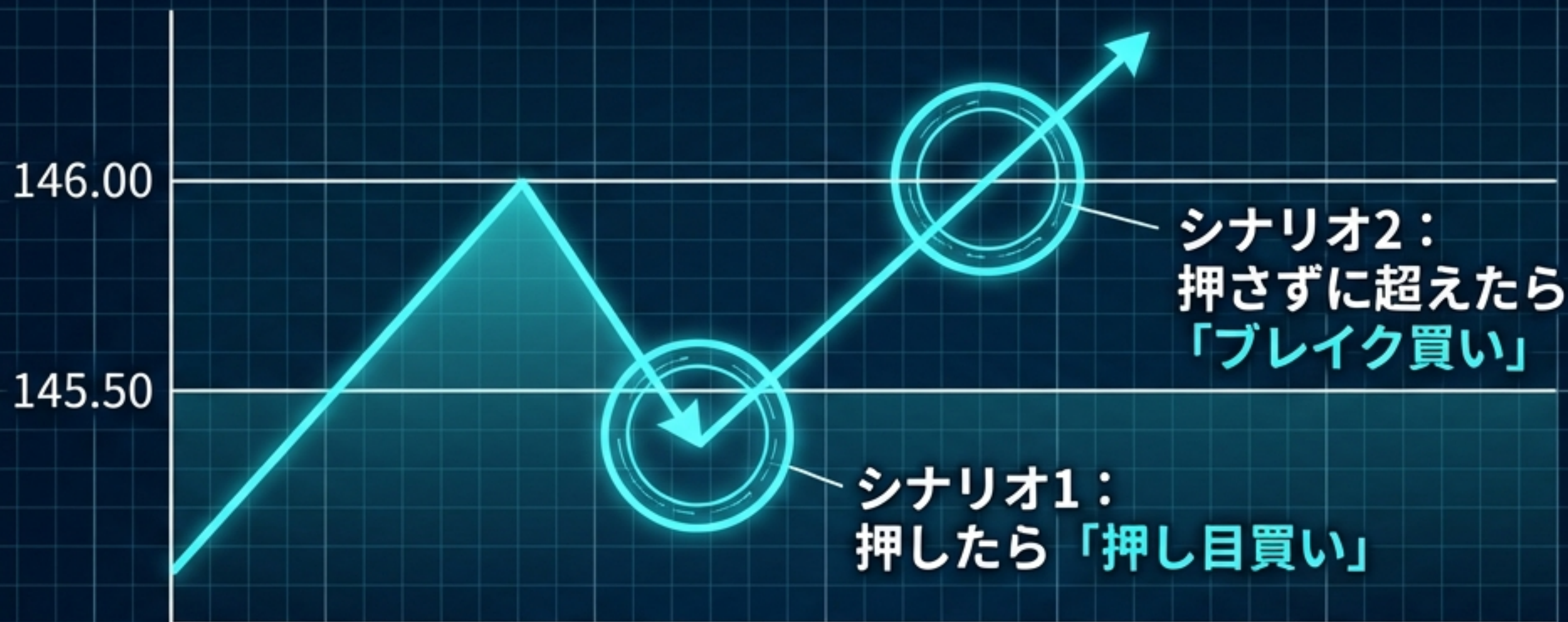


パターンB：待たない (Don't Wait)



パターンBで「押し目」を待っていると、置いていかれる。

③ エントリーの切り替え：二段構えの極意



予想するのではなく、どちらに転んでもいいように「罠」を張る。

チャートを見ていなくても、どちらかの注文が刺さる。

実践：注文の置き方

注文カード1

Buy Limit (指値) @ 145.50

リンク先: 押し目シナリオ



数量 145.50

有効期限 28

注文カード2

Buy Stop (逆指値) @ 146.00

リンク先: ブレイクアウトシナリオ



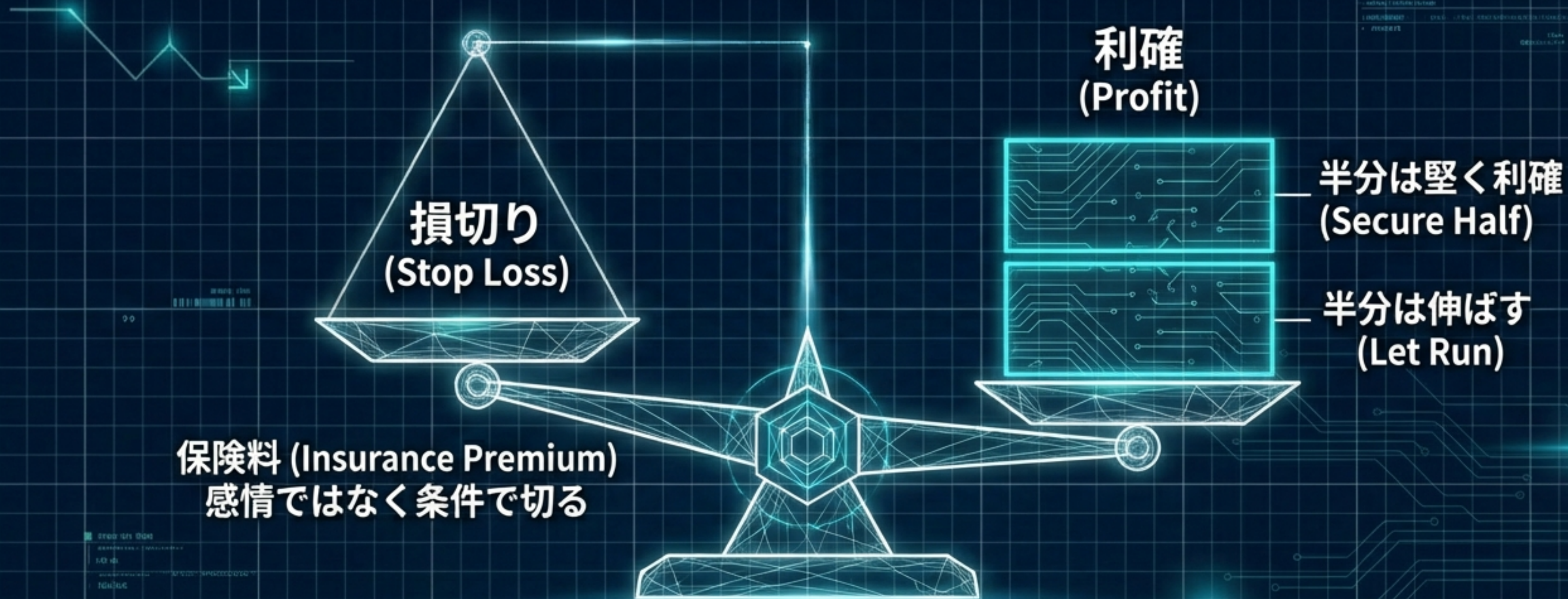
数量 146.00

有効期限 28

- 「押し目が来なかったらどうしよう」という不安が消える。
- これが会社員スイングの柔軟性。

どちらに転んでもいいように「罫」を張ることで、柔軟な対応が可能になる。

④ 利確・損切り設計：生き残るための保険



「当てること」よりも「資金が壊れないこと」を優先する。

資金シミュレーション：負けても残る設計



3回中2回負けても、トータルで利益が残る計算。

なぜ「正しい押し目」は機能しないのか？

アマチュア視点：高い
(Expensive)



PRICE LEVEL

❖ みんなが知っている
「正しい場所」は、狙われやすい。

プロ視点：軽い
(Momentum)



❖ 売り手がいない + 押し目待ち過多
= 落ちてこない

「正しさ」への執着を手放し、「事実」についていく。

会社員スイングのルーティン

Morning

Night

07:00
朝10分: 設計 (Design)
& 注文 (Order)

仕事に集中 (Work Focus) /
チャート見ない (Ignore Chart)

09:00 - 18:00



21:00
夜: 確認 (Check)

Before

睡眠不足、感情的、
画面に張り付く

After

熟睡、安定的、
利益が積み上がる

生活の質を上げながら、トレードの成績も上げる。

最終チェックリスト



環境認識：トレンドは順張りか？



相場タイプ：押しが深いか、浅いか？



エントリー設計：二段構えになっているか？



出口設計：損切りは経費として許容できるか？

これが全てYESなら、もうチャートを見る必要はない。

結論：手法コレクターから「設計者」へ

- FXで勝ち続ける人は、
未来を予知できる人ではない。
- 相場に合わせて、
戦い方を設計し、
切り替えられる人だ。



焦らず、一つずつ「設計」を積み上げよう。